「たんぼにまつわる話」28.

―カエルのゆりかご―

岡山市牟佐 十川　巡一

私が生まれたのは岡山市牟佐大久保、前を旭川、後が高倉山と自然に恵まれた小さな農村でした。父の仕事の都合で玉柏や、市内の柳町に住んでいたりして、帰って来たのは小学四年生の春でした。町なかの小さな空き地でよく遊んでいた私は、水を得た魚のように学校から帰るとカバンを放りだし、暗くなるまで遊んでよく叱られました。そんな私にとってたんぼは絶好の遊び場所、しかも動物や植物が見られて楽しい毎日でした。

６月中旬を過ぎると田植えの時期です。最初の手伝いは、昼飯のおにぎりと冷えたお茶の入ったヤカンを運ぶことでした。家からたんぼまで遠いので私にとっては重労働でした。「オーイ昼ご飯持ってきたよー」と声をかけるとズボッ、ズボッと、音をたててたんぼの中から足を抜くように歩いて帰って来て、あぜ道に腰掛け皆で楽しく食べました。その美味しかったこと！

田植えの終わった後のたんぼは水をたたえているので、カエルの声のうるさかったこと…しかし、子供の頃の私にとって遠くに聞こえるカエルの合唱は心地よい響きでした。その時季たんぼの中に産卵するのはアマガエル、ヌマガエル、トノサマガエルなどです。アマガエル、ヌマガエルは成長が早く約30日程で小さくても一人前のカエルの形をして水の中から出てきますが、トノサマガエルは80日前後かかります。

夏休みになると朝早くクワガタやカブトムシを探しに、勉強時間が終わると、午前中はセミやトンボとり、その頃はため池の上で沢山のコシアキトンボが飛んでいました。そして昼から川で泳いだり魚とりしたりと、多忙な日々を送っていました。私が夢中で遊んでいる頃、大人達はたんぼの草とりや、害虫退治に夢中で農作業をしていたのでした。やがて、夏休みが終わる頃、一人前の姿をした小さなトノサマガエルが見られるようになります。

秋になって刈り入れが終わる頃は、ため池によっては水が少なくなります。池にいる大きなオタマジャクシを見て、あのしっぽを食べてみようと思った私は、池に入り捕まえました。今度は池の岩の下に手を入れると「ヌルッ！」。捕まえたウシガエル（食用ガエル）を、さっそく河原に行き皮をむき焼いて食べました。美味しかった…（初めての経験でした。しかしオタマジャクシは焼くと身が無くなり食べられなくなりました）。やがて秋の終わる頃にはカエルは冬眠します。

２月中旬を過ぎるとやねみぞやたんぼの傍の小さな池の近くに雄のニホンアカガエルがやって来ます。オレンジ色した奇麗なカエルです。時々「グゥッ、グゥッ」と鳴きます。２月下旬のシトシトと雨が降る夜に産卵が始まります。休日に行ってみると４～５個の卵塊がありました。３月中旬には、沢山の卵塊がありました。早いものはもうオタマジャクシとなって卵のぬけがらにさばりついています。またヒキガエルの卵も同じ頃に産み付けられます。ぐにゃぐにゃとした何メートルもある透明なヒモの中に黒い卵が並んでいます。「カエルの卵は？」と言われると頭の中に浮かぶ形です。子供の頃は一番良く目に付く卵でしたが最近では余り見ることが出来なくなりました。

３月中旬を過ぎるとやねみぞの傍で「カタカタカタ、カタタタタタ」とカスタネットをたたくような鳴き声が聞こえて来ます。今度はシュレーゲルアオガエルの産卵が始まります。アマガエルより大きく緑色のきれいなカエルです。やねみぞの傍の土の中に泡状の卵を産み付けます。たんぼやたんぼのまわりはカエルにはとても大切な場所なのですね。

ニホンアカガエルの卵塊とおたまじゃくし

ヒキガエルの卵のうとおたまじゃくし

岡山県自然保護センター 提供
TEL:0869-88-1190 FAX:0869-88-1195
〒709-0524 和気郡和気町田賀730
http://homepage3.nifty.com./OPNACC/index.html